

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス・児童発達支援HIKARIE 3rd		
○保護者評価実施期間	2025年1月13日 ～ 2025年2月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24 (回答者数)	18
○従業者評価実施期間	2025年1月13日 ～ 2025年2月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な年齢のお子様がいる中で、個々の活動のねらいを明確に もち、活動を実施することができる。	集団としてのまとまりを大切にしながら、みんなで同じ活動に 取り組んでいる。その際、それぞれのお子様の実態や成長に合 わせた課題を把握したうえで、個々のねらいを明確に活動して いる。 指導員間でも共有し、一貫した支援を行っている。	保護者や指導員間で、実態や課題の情報共有をより密に行 い、その課題が達成できるような活動内容を計画していく。 活動に偏りが出ないように、お互いに意見を出し合い、幅広 い活動内容を実施していく。また、指導員のスキルアップと して教材研究や障がい理解を深め支援に務めていく。
2	日々の活動内容やお子様の様子をアプリを使うことで、保護者 に分かりやすくお伝えすることができる。また、保護者と事業 所間での連絡事項や情報共有がスムーズに進めることができ る。	日々の活動の様子や写真や動画をアプリでお知らせすること で、保護者の方がより事業所での様子が分かるように工夫して いる。スケジュールや連絡事項をアプリで管理することで、保 護者に確実に周知することを心がけている。	一人一人のお子様の課題や保護者のニーズに対しての、日頃 の様子をお伝えできるようにしていく。また、事業所での取 り組みを家庭でも引き継ぐことができるように、連絡帳や懇 談等でお伝えしていけるようにしていく。
3	保護者の希望に応じて、園との連携を図り、園、家庭、療育と 一貫した支援を行うことができる。	実際に園での様子を見学したり、園の先生と話をすることで、 お子様の様子や課題を共有している。そのうえで、どのような ねらいをもって取り組んでいくか支援の方向性を話し合ってい る。	継続的に園との連携を行い、支援の方向性をより明確にして いく。また、課題の共有だけでなく、それぞれでうまくいっ ている取り組みも共有し、お子様にとってより良い支援をみ んなで模索していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他のこどもと活動する機会についての実施方法。	まずは事業所内の仲間同士の関わりを優先しているため、地域 の他のこどもと活動が少なかった。	今後機会があれば、計画したいと思います。
2	保護者会についての実施。	事業所内のイベント等で保護者様にボランティアとして参加い ただき、保護者同士が話をする機会を作り、交流を深めていま す。	今後は父母会等も開催させていただく予定です。
3			